

エゾシカワーキンググループの経過報告・今後の予定

1. 令和7年度エゾシカ WG の開催概要

- ・第1回会議 令和7年 6月27日(金) 斜里町公民館ゆめホール知床
- ・第2回会議 令和7年 11月20日(木) 札幌市北農健保会館
※翌11月21日(金)に植生指標検討部会を別途開催。

2. 主な議事内容

第2回会議では、2025(R7)シカ年度エゾシカ実行計画の実施状況が報告されたほか、令和8年度に実施予定の世界遺産地域内におけるエゾシカ管理について議論を行った。別途開催した植生指標検討部会の議論内容も含め、主な意見・指摘事項は以下のとおり。

■2025 (R7) シカ年度エゾシカ実行計画の実施状況について

- ・高山植生影響調査において、知床沼地区の植被率の減少を確認。ハイカーの踏圧およびエゾシカの侵入等による影響によって裸地化が起きている可能性が指摘された。
- ・森林植生影響調査では、エゾシカの捕獲を行わないルシャ地区においては植生への食害の影響が顕著に出ていた。エゾシカ密度の低下が確認されている遠音別地区では広葉樹の下枝、稚樹ともに増加傾向にあり、小径木本数の増加も確認された。
- ・植生影響調査とエゾシカ個体数モニタリングについて、それぞれへの影響を相互評価できるように、実施地域・手法ともに再整理を行う事の必要性が指摘された。
- ・知床岬地区において試行中の自動撮影カメラを用いた周年でのエゾシカの生息密度と季節移動の調査について報告があり、航空機で越冬期に実施している既存調査に替わる有効な調査手法となる可能性が示された。

■2026 (R8) シカ年度エゾシカ実行計画について

- ・令和8年度のエゾシカ個体数調整について、知床岬地区における厳冬期巻狩を最優先で実施する事とし、次いで、近年低密度で推移している幌別-岩尾別、ルサ-相泊の2地区においても可能な限り継続して捕獲圧をかけることで合意した。

■植生指標検討部会について

- ・現行のエゾシカ管理計画で植生回復目標としていた“1980年代初頭の植生の状態”は、進行しつつある気候変動により変化している可能性があるという認識が共有された。
- ・植生回復目標については変遷過程をモニタリングしつつ、複数のシナリオを想定した上で継続して議論・検討していく必要があるとの見解が示された。

3. 令和8年度エゾシカ WG に関する今後の予定

第4期知床半島エゾシカ管理計画の改訂のため、令和8年度はエゾシカ WG、植生指標検討部会いずれも各2回程度の開催を予定。

- ・第1回 WG：令和8年6月頃 斜里町
- ・第2回 WG：令和8年11～12月頃 札幌

以上